

金 賞

きれいな水にありがとう

江田 すみれ

小郡市立 三国小学校

わたしは、宝満川浄化センターを見学して、わたしたちの使ったあとの水の行方を知ることができました。

さい初に、使った水が流れるのは、ちんさ池という所です。そこでは、流れてきた水の大きなゴミを取りのぞきます。次に、大きなゴミを取った水たちは、さい初ちんせん池という所に流れて行きます。そこで今度は、ちんさ池では取りのぞけなかった、小さなゴミなどをしずめます。次は、反のうタンクに行きます。ここで重要なのは、「活性汚泥」という目には見えない小さな小さな生物です。実は、その活性汚泥はすごい力をもっています。反のうタンクに入っている、まださい初ちんせん池まで通ってきた水をおわせてもらおうと、すごくくさいにおいがしました。その水に活性汚泥をくわえました。ここで一番おどろいたことは、活性汚泥は、十三時間もの時間をかけてごみとくつつくと、今度は空気をふくみ、仲間とくつついて七時間かけてしずんでいくことです。時間をかけて活性汚泥できれいになった水は、においのない水になっていました。

しかし、すごい力をもっている、こんな活性汚泥も油には弱いそうです。だから、油を捨てる時は、そのまま流さずかためるか、紙にすわせてゴミ箱に捨てるなど、油を流さない工夫をしていきたいです。次に、においがなくなった水は、さい終ちんせん池にいきます。そこで、反のうタンクで大きいかたまりになったどろをしずめて、上のほ

うのきれいな水を流します。さい後に、消どくしせつに行き、消どくした水は宝満川に流されます。これまでの下水しよ理にかかった時間は、二十時間です。

このように、わたしたちが使った水は、いろいろなところをめぐり、また、わたしたちのもとへ流されていることが分かりました。だから、きれいになるまでにかかった時間を知ることが、水道からきれいになる水のありがたみが分かりました。きれいな水がじゃ口から出るのは、当たり前ではありません。そのことを知り、ふだんの生活でも水道のじゃ口をひねると、水が安心して使えることに感しやして、水を使っていきたいです。